

No	感染症(PT)	出典	概要
396	細菌感染	ABC Newsletter 2007年9月21日	FDAは輸血前の血小板中の細菌汚染を検出するための初めての迅速検査を販売承認した。Verax Biomedical Inc 製造のPlatelet Pan Genera Detection Test Systemは病院の輸血部で使用するための使い捨て検査機器である。
397	細菌感染	American Society for Microbiology 107th Annual Meeting; L-004 2007年5月21-25日	日本の三次医療施設である自治医科大学病院(病床数1082床)において、2006年4月1日～8月31日に、患者28名の血液培養から <i>Bacillus cereus</i> が検出された。リネン類の汚染と末梢静脈ラインの不適切な取り扱いが原因であると考えられた。一時的にリネン類のオートクレーブ処理を行い、洗濯機を洗浄し、末梢静脈ライン管理について職員の教育を行ったことで、 <i>B. cereus</i> 陽性血液培養はその後検出されなかった。
398	細菌感染	Ciencia Rural 2007; 37: 171-174	ブラジルRio Grande do Sulの11農場から集めた乳腺炎疑いの雌牛のミルク188検体で細菌学的検査を行った。黄色ブドウ球菌が最も高頻度に分離され、次に <i>Corynebacterium</i> spなど通常の原因菌であった。ある農場の32検体中6例では通常の原因菌は検出されず、 <i>Arcobacter</i> sppが分離されたが、これらの検体は乳腺炎の症状のないウシのミルクであった。ブラジルで雌牛のミルク中に微生物が検出された初めての報告である。
399	細菌感染	Clin Infect Dis 2007; 44: 1408-1414	2005年3月、米国ネブラスカ州の病院で複数の病室において、無針静注カテーテルコネクタールバルブが導入された時期に血流感染の急激な増加が見られた。一次血流感染について調査を行ったところ、一次血流感染と無針静注カテーテルコネクタールバルブの使用との間に有意な関連性が認められた。細菌培養を行った37個のバルブのうち24.3%から微生物が検出され、主にコアグラウゼ陰性ブドウ球菌であった。無針コネクタールバルブの評価には市場導入前に感染リスクの査定を含めるべきである。
400	細菌感染	<a href="http://as.baikal.tv/news/new.html?newsid=200612306">http://as.baikal.tv/news/new.html?newsid=200612306</a>	ロシア、イルクーツクの農場経営者の話によると、ここ数ヶ月で数千頭の動物が敗血症で死亡したとのことである。感染はこの地方全域に拡大した。獣医は住民の健康状態を懸念しており、認可を受けていない市場で精肉を購入しないように呼びかけている。死んだウサギは予防接種をしていなかった。
401	細菌感染	Int J Hyg Environ-Health 2006; 209: 553-556	イタリアAnconaの病棟で入院中に少なくとも1回の38°C以上の発熱をした患者4名から、同じ抗菌剤感受性を持つ緑膿菌が分離されたため、調査を行った。ヘパリンと生理食塩水の混合液から緑膿菌が分離され、患者の血液検体から分離された緑膿菌と同一のPFGEパターンを示した。消毒液、生理食塩水、密閉されたヘパリン液バイアルは全て陰性であり、混合されたヘパリンと生理食塩水を数日間使用したことによるカテーテル関連血流感染であることが明らかとなった。
402	細菌感染	J Eur Acad Dermatol Venereol 2007; 21: 818-821	2000-2004年にパリの性病クリニックに紹介された患者におけるキノロン耐性淋菌(QRNG)感染率を評価した。淋菌症例数は2000年(41例)から2002年(12例)に減少したが、2004年には60例となり増加に転じた。QRNG感染率は2000-2002年に1.3%、2003年に22.7%、2004年には30.2%であった。QRNG感染率は男性とセックスをする男性やHIV感染者で高かった。
403	細菌感染	J Support Oncol 2007; 5: 273-278	中心静脈カテーテルを有する患者246名を無作為に、ヘパリンコートカテーテルで生理食塩水を注入する群(ヘパリンコート群)または非コートカテーテルで低用量の未分画ヘパリンを注入する群(対照群)に割り当て、無作為対照試験を行った。カテーテル関連血流感染はヘパリンコート群では2.5%(3/120カテーテル)、対照群では9.1%(11/120カテーテル)で起こり、有意な差が見られた。出血は両群で差がなかった。ヘパリンコートカテーテルの使用はカテーテル関連血流感染を防ぐのに安全かつ有効な方法である。
404	細菌感染	N Engl J Med 2007; 356: 2381-2387	ペルーに旅行した後、熱および脾腫を呈し、 <i>Bartonella bacilliformis</i> に似た微生物による菌血症となった患者の血液検体を培養し、分離菌を調べた。遺伝子解析により、この分離菌は <i>B. clarridgeiae</i> に近縁で、 <i>B. bacilliformis</i> に遠縁の新種であることが明らかになり、 <i>B. rochalimae</i> と名づけられた。この分離菌を赤毛ザルに接種したところ、3日目に発熱し、7日目にヘマトクリット値が減少し、14日目に菌血症となった。
405	細菌感染	Nephrol Dial Transplant 2007; 22: 471-476	血液透析ユニットで中心静脈透析カテーテルのロッキング液として使用していたヘパリン10000 U/mlを4%クエン酸ナトリウムに切り替え、前後1年間の結果を分析した。カテーテル交換率、INFアッセイ干渉率、rt-PA有効率、菌血症率および年間コストについて調べた。カテーテル交換率、rt-PA有効率および菌血症率は両群で有意差は無く、クエン酸ナトリウムの薬物経済学的利点が支持された。更に、クエン酸ロックはヘパリン関連出血合併症がなく、INRアッセイの信頼性を改善した。
406	細菌感染	Nephrol Dial Transplant 2007; 22: 477-483	4%クエン酸とヘパリンロッキングの臨床的効果、安全性およびコストをprospectiveに比較検討した(クエン酸群:患者129名、177カテーテル、ヘパリン群:患者121名、176カテーテル)。中心静脈カテーテル交換率、血栓溶解剤(TPA)使用および関連入院期間について、クエン酸群はヘパリン群と比較して同等かもしくはより優れた結果を示した。カテーテル関連細菌菌血症率はクエン酸群の方が有意に低かった。クエン酸は安全でより安価な代替品である。

No	感染症(PT)	出典	概要
407	細菌感染	ProMED-mail20070108.0079	チェコBrnoでリステリア症の原因菌によりここ2週間で2名の女性が妊娠20週目に流産し、もう1例ではリステリア症が新生児に伝播したが、その子供は生き残った。感染経路は不明であるが、3名とも熟成中のチーズが好物とのことである。同国では以前このチーズ中に病原菌が発見された。同国では2006年には8名がリステリア症で死亡し、計62名がリステリア症と診断された。2005年の4倍以上であった。
408	細菌感染	ProMED-mail20070226.0696	中国Heilongjiang省で1年以上前に始まった奇病で1000人以上の労働者が解雇された。300名の患者がまだ病院で治療中である。感染源は政府が彼らのために購入したヒツジであると労働者たちは主張している。検査の結果、ヒツジがブルセラ症の宿主であった。
409	細菌感染	ProMED-mail20070809.2584	米国Vermontではシカダニ(クワアシダニ)によって伝播される感染症であるライム病の報告症例数が過去2年で2倍となった。2005年は29例、2006年は62例で、今年(2007年)は今までに71例が報告されている。症例は同州の南部に集中している。
410	細菌感染	Public Health Agency of Canada/Infectious Diseases News Brief 2007年7月27日	英国において2007年上半期のライム病確定症例数は198例であり、2006年同時期の194例と類似していた。2006年通年の暫定的な総報告数は768例で、1997年にサーベイランスが導入されて以来、3500例以上の確定例が報告されている。英国人10万人当たりの年次発生率は1997-2000年は0.38人、2002年は0.64人、2006年は1.46人と増加している。
411	細菌感染	Transfusion 2007; 47: 1134-1142	アメリカ赤十字で2004年3月1日~2006年5月31日の期間に1,004,206例の供血で細菌培養検査が行われ、その内188例が陽性であった。関連するアフエーシス血小板293製剤のうち1件を除くすべての輸血が回避された。両腕法を用いて採取した場合の細菌培養陽性率は、片腕法と比較して有意に高かった。また、スクリーニング陰性の製剤に関係した敗血症性輸血反応が20例(うち死亡3例)報告されたが、両腕法を用いて採取した場合の頻度は片腕法と比較して4.7倍であった。
412	細菌感染	Vet Microbiol 2006; 118: 148-150	ペットのウサギのイヌに咬まれた傷からCapnocytophaga canimorsusが培養された。傷は治療が成功し、ウサギは回復した。ヒト以外の種におけるC. canimorsus感染の最初の報告である。
413	細菌感染	Wien Med Wochenschr 2007; 157: 398-401	種々の病棟から集められたバイアル96本中4本は無菌ではなかった。その内3本は保存剤を含有しているマルチドースバイアル(MDV)であった。保存剤を全くまたは適量含有していないシングルドースバイアルやアドミックスバイアル28本も複数回使用されていた。MDV68本中15本は初回投与後の使用期限を越えていた。
414	細菌感染	感染症学雑誌 2007; 81(Suppl): 153-154	北海道から九州の6病院において肺炎を有する6名の患者から得られた分離菌について、集落形態、培養・生化学的・分子遺伝学的性状並びにミコール酸のHPLCを調べた。4病院で分離された4菌株の酸化した小川培養菌細胞から抽出されたミコール酸のHPLC分析では米国CDCデータベースの既知HPLCパターンに一致するものはなく、新種と考えられた。検討した諸性状から、Runyon III群所属の1新抗酸菌種に属すると考えられた。
415	細菌感染	第56回日本感染症学会東日本地方総会 第54回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会(2007.10.26-27)	敗血症を発症した64歳男性の血液より、嫌気性のグラム陽性球菌~短桿菌が培養された。RNA塩基配列を決定し、Actinobaculum shaaliiと同定した。同定後、SBT/ABPCの投与を行い、患者は軽快退院した。日本で初めてのA. shaalii感染報告症例と思われる。血液培養で菌種不明の嫌気性グラム陽性菌が検出された場合、同菌である可能性がある。
416	細菌感染	第81回 日本感染症学会総会・学術講演会(2007年4月10-11日) W17-2	北海道から九州の6病院において肺炎を有する8名の患者のかっ痰または気管洗浄液から抗酸菌を分離し、分離菌の集落形態、培養・生化学的・分子遺伝学的性状並びにミコール酸のHPLCについて検討した。全ての分離菌は共通の集落形態、培養・生化学的性状を示した。分子遺伝学的にも高い相同性を示した。4つの分離菌株由来のミコール酸HPLC分析の結果、米国CDCのLibrary databaseにはない新種の抗酸菌と考えられた。
417	細菌感染	日本細菌学雑誌 2007; 62(1)/第80回日本細菌学会総会	急性の増殖性腸症罹患豚の回腸粘膜より集菌した菌体を2種の細胞株(IEC-18およびHep-2)へ接種し、培養したところ、免疫相組織染色によりLawsonia intracellularisが初めて確認された。培養菌より抽出したゲノムDNAの塩基配列を解析した結果、培養菌由来の数種のPCR増幅断片の塩基配列は基準菌の配列とほぼ一致した。日本の分離株は、英国由来である基準株(NCTC12656)と近縁であることが示唆された。

No	感染症(PT)	出典	概要
418	重症急性呼吸器症候群	Transfusion 2006; 46: 1770-1777	血液由来製品を模した蛋白質溶液中の重症急性呼吸器症候群コロナウイルス(SARS-CoV)を不活性化する方法として、加熱、UV照射、オクタン酸、溶剤/界面活性剤(S/D)法を検討した。その結果、60°Cで15-30分間加熱および40分間UVC照射はSARS-CoVを不活性化した。UVA照射はソラーレン添加を必要とし、オクタン酸処理はSARS-CoVを不活性化できなかった。S/D処理は、SARS-CoV不活性化に、Triton X-100は2時間、Tween 80は4時間、石炭酸ナトリウムは24時間を要した。
419	人畜共通感染症	Vet Microbiol 2004; 104: 113-117	異なった地域のブタから収集された血清検体のうち66.2%(102/154)でブタTTウイルスDNAが検出された。ブタTTウイルス自体はブタで発現する疾患との関連は知られていないが、他の病原体と共感染した場合に疾患を増悪させる可能性は否定できない。ブタ臓器などを使用した異種移植の際のヒトへの影響が懸念される。
420	赤痢	CDC/MMWR 2006; 55(39): 1068-1071	2005年に米国Kansas、KentuckyおよびMissouri州は、デイクアセンターに関連した、多剤耐性(MDR) Shigella sonnei株が主に原因である細菌性赤痢症例の増加を報告した。KansasとMissouriからの分離株は同様のPFGEパターンを示したが、Kentuckyからの分離株は異なったPFGEパターンを示した。
421	旋毛虫症	Infection 2007; 35: 89-93	2001年にスロバキア南西部で起こった旋毛虫症について疫学的調査を行ったところ、感染した豚肉や燻製豚肉製品の摂取に関連しており、4家族が感染していた。感染した肉を食べた23名中11名の血清中に抗trichinella抗体が検出され、6名が臨床症状を呈した。Multiplex PCR分析によって、ブタ肉から分離された寄生虫の幼虫は同国では稀にしか発生しないTrichinella spiralisと同定された。
422	炭疽	ProMED-mail20061220.3572	ジンバブエMashonaland east地方Goromonziで炭疽により3名が死亡した。病気の動物の肉を食べたり、取り扱ったため感染したと思われる。その地域の全ての動物にワクチン接種が開始された。家畜や肉の移動が制限され、全ての屠殺場が閉鎖されている。
423	炭疽	ProMED-mail20070205.0453	オーストラリアVictoria州在住の34歳の屠畜場従業員が、炭疽菌に感染したウシの死骸を処理後、炭疽に感染して入院し、回復に向かっている。この州において10年間で初めてのヒト症例として、この男性は先週(2007年1月28日~2月3日)初めに皮膚炭疽と診断された。過去数週間にわたって、25頭のウシが州北部のStanhope地区の4農場で炭疽に罹患した。
424	炭疽	ProMED-mail20070206.0471	オーストラリア、北部Victoriaで、炭疽が極めて局地的に3カ所の酪農場と1カ所の畜牛場で確認されている。炭疽は2007年1月19日に発生した。ビクトリア州一次産業局(DPI)はその農場の家畜と生産品の移動を追跡し、感染した死骸を廃棄し、感染した農場と近隣の農場にワクチン接種を実施することにより、直ちに対応した。2007年2月3日以降、どの農場からも新たな症例は検出されていない。
425	炭疽	ProMED-mail20070219.0625	2007年2月4日の週に、ウシ2頭が炭疽で死亡した。この2頭は芽胞を含んだ飼料を食べた後発症した。2006年夏にはSaskatchewanにおいて家畜約800頭が死亡し、これまでで最悪の炭疽のアウトブレイクの記録であった。これらは放牧中に土中の炭疽芽胞を食べた後に死亡した。炭疽芽胞は何年も土中に残り、今年の夏も死亡例の増加が懸念される。
426	炭疽	ProMED-mail20070401.1111	カナダSaskatchewanにおい4施設で炭疽が確認された。全症例は炭疽の胞子で汚染された飼料に関連していたと考えられている。CFIAは今後3年間、流行地区で放牧される家畜に対してワクチン接種を推奨している。
427	炭疽	ProMED-mail20070412.1223	2007年4月9日、ギニア-ビザウにおける最近の炭疽のアウトブレイクで1名が死亡し、7名が感染したと同国の保健省が発表した。病獣の肉を食べたためと思われる。同地域ではウシ5頭で炭疽感染が報告されている。
428	炭疽	ProMED-mail20070414.1247 ProMED-mail20070417.1271 ProMED-mail20070420.1298	インドネシアEast Nusa Tenggara地方Sumba島で炭疽菌に汚染した牛肉を食べた後、8名が死亡し、他の6名が入院した。検査によりこれらの患者は炭疽菌陽性であることが確定した。この地域の家畜は全てワクチンを接種された。この地方では1994年以降約40名のヒトが炭疽で死亡し、1150頭以上のウシが感染している。

No	感染症(PT)	出典	概要
429	炭疽	ProMED-mail20070423.1327	オーストラリアVictoria州Goulburn Valleyで小規模な炭疽の流行が2007年1~2月に発生し、6週間で10農場の37頭のウシが死亡した。2007年2月23日以降、新たな症例は発生していない。2007年1月19日から乳牛で急死が報告され始めた。炭疽と確定するとすぐに、ビクトリア州の一次産業局(DPI)は直ちに隔離措置、死骸の焼却、近隣農場を含めてのワクチン接種を開始した。芽胞汚染を抑制するため、死亡現場はホルマリンで消毒された。
430	炭疽	ProMED-mail20070426.1363	2007年4月24日、米国South Dakota州のウシの群れで炭疽が検出された。この群は2年前に炭疽を経験している。この春約50頭の群れのうち、2頭が死亡した。この群には直ちに抗生物質による治療、ワクチン接種、および畜産委員会の監督下での死骸の処分が行われることとなった。炭疽芽胞は汚染された土壌中でいつまでも生き延びる。干ばつ、洪水及び風などの著しい気候の変化は、牧草を摂取する家畜を炭疽芽胞に曝露させることがある。
431	炭疽	ProMED-mail20070426.1363	米国South Dakota州 Brown郡で約50頭のウシの群れにおいて炭疽が2007年4月24日に確認された。2年前に同じ群れでアウトブレイクが発生していた。土中に炭疽胞子が生存しており、干ばつ、洪水、強風により放牧中の家畜が胞子に暴露する可能性がある。
432	炭疽	ProMED-mail20070518.1586	ロシアStavropolのKursk地区で炭疽のアウトブレイクが報告されている。当局の発表によると、Avalovo村の住民1名が病気の雄の子牛を畑で屠殺した後、炭疽の症状で入院し、2007年5月12日に死亡した。この肉を購入したヒトを追跡中である。
433	炭疽	ProMED-mail20070519.1590	アルゼンチンでは2006年に29の炭疽アウトブレイクがウシで起こり、ヒト皮膚炭疽症例が計9例(内3例はBuenos Aires地方)であった。1997年以降、年間発生率は減少しつつある。
434	炭疽	ProMED-mail20070608.1877	2007年6月5日付けCBC Newsによると、カナダManitobaのウシが今年初めて炭疽により死亡した。この農場では昨年の夏にも炭疽が発生した。
435	炭疽	ProMED-mail20070614.1946	Canadian Food Inspection Agency (CFIA)は、2007年5月下旬にSaskatchewan・Lloydminster近辺の農場でウシ1頭が炭疽により死亡したことを2007年6月11日に確認した。
436	炭疽	ProMED-mail20070707.2170	2007年7月5日、米国Minnesota州の動物保健局は、Marshall Countyにおいて先週牧草地で死亡しているのを発見されたウシ1頭は、炭疽で死亡したと確認され、2007年で初めての症例となったと報告した。
437	炭疽	ProMED-mail20070713.2246	米国テキサス州San Angelo Areaにおけるウシおよびシカの大量死亡に関して、2007年7月13日に、動物の剖検検体で炭疽陽性が培養で確認された。
438	炭疽	ProMED-mail20070727.2427	米国South Dakotaにおいて2007年2件目の家畜(ウシ)における炭疽が確認された。2007年7月24日、Kimballの南西で放牧されている100頭のウシの群れにおいて炭疽が確認され、11頭が死亡した。この群れは以前に炭疽に対するワクチン接種を受けていなかった。
439	炭疽	ProMED-mail20070730.2445	アルゼンチンAzul郡で2007年7月24日に妊娠した雌ヒツジ1頭が死亡しているのが発見され、検査キットおよび培養で炭疽陽性であった。

No	感染症(PT)	出典	概要
440	炭疽	ProMED-mail20070731.2459	米国North Dakota州Trailのウシ1頭が、同州で今年初めての炭疽陽性と確認された。同じ群れの動物は隔離され、ワクチン接種された。
441	炭疽	ProMED-mail20070808.2575	カナダManitobaのInterlakeにおいて、炭疽のアウトブレイクによりウシ49頭、ヤギ2頭、ウマ1頭が死亡した。ヤギ2頭、ウマ1頭は感染胞子の摂取により死亡した。
442	炭疽	ProMED-mail20070820.2717	キルギスタンでは近年ヒト炭疽症例が増加している。2006年は17例が登録されたが、2007年8月10日までに、既に12例が登録されている。2007年8月13日に入院したOsh州Uzgen地区の43歳男性はトキシックショック症候群を呈し、左前腕のカルブネル症と診断されたが、死亡した。予備的な検査結果は炭疽陽性であった。疫学的調査の結果、この患者は炭疽で死亡した疑いのあるウシの解体を行ったことが明らかとなった。肉を食べた人も入院となった。
443	炭疽	ProMED-mail20070823.2758	2007年8月22日現在、カナダManitobaのInterlakeにおいて炭疽陽性であった農場数は22である。これらのアウトブレイクの発生日は2007年7月11日～8月12日である。
444	炭疽	ProMED-mail20070828.2823	米国Montana北東部のSheridan Countyにおいて、先週(2007年8月20～24日)、ウシ計8頭が炭疽により死亡した。
445	炭疽	ProMED-mail20071001.3246	アルゼンチンで、トウモロコシの切り株のある場所で放牧されていた300頭のウシの群れに炭疽のアウトブレイクが発生した。干ばつ後の降雨の後に突然5頭が死亡した。この農場では5年前にも炭疽が流行した。
446	炭疽	ProMED-mail20071004.3287	アルゼンチンBuenos Aires州で炭疽のアウトブレイクが確認された。アウトブレイクが確認された農場はPartido de La Madridにあり、これまでに動物2頭が突然死亡した。この農場では2004年にも炭疽が発生した。
447	伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2007; 92: 121-124	ハプトグロビンおよび抗トロンビンの2つの異なる調整液にヒトパルボウイルスB19を加え、60°Cで10時間処理した。異なる溶液中のB19は加熱中異なる熱感受性パターンを示し、ハプトグロビン調整液中では緩やかな不活性化、抗トロンビン調整液中では限定的な不活性化であった。異なる調整液を用いた以前の研究ではB19は迅速に不活性化され、今回の不活性化の動力学とは大きく異なった。B19の熱感受性は溶液組成に大きく依存する。
448	日本脳炎	Epidemiol Infect 2007; 135: 974-977	2004年11月から2005年2月にかけて、日本の西部に位置する広島県の野生イノシシから血清25検体を採取した。日本脳炎ウイルス(JEV)に対する抗体検査を、IgMキャプチャー及びIgG酵素免疫測定法(ELISA)、並びにプラーク減少中和試験により行った。17検体(68%)がJEV中和抗体陽性だった。中和抗体陽性検体は全てIgG-ELISA陽性だった。1検体はIgMも陽性だった。約70%の野生イノシシが抗JEV抗体陽性であることが示され、この地域のJEV感染サイクルに関与している可能性が提示された。
449	日本脳炎	日本ウイルス学会第54回学術集会(2006年11月19-21日)	2005年に富山県内で捕集した蚊683プール(10061個体)および2005年に採取したブタ血清173検体からウイルスを分離した。蚊プールからはウエストナイルウイルスは検出されなかった。日本脳炎ウイルスは、豚舎付近と牛舎付近のコガタアカイエカ11プールと、ブタ血清2検体より分離され、いずれも型であった。富山県ではこれまでのところウエストナイルウイルスの侵入はなく、また、現在もコガタアカイエカ(媒介者)とブタ(増幅動物)の関係が保たれていることが示唆された。
450	梅毒	CCDR 2007; 33(6): 61-67	カナダAlberta州Edmontonでは2003年に感染性梅毒が大幅に増加し、27例が報告された。2004年は52例、2005年は106例、2006年の1～3月は36例と症例数が増加している。四半期毎に解析したところ、疫学曲線は2003年中および2004年上半年に小規模の初期アウトブレイクが認められ、2004年の第3四半期初頭からは症例数の大幅な増加を伴う第2期アウトブレイクが今日まで継続中である。土着民女性の感染率は白人女性より20倍以上高かった。2005年には先天性梅毒の新生児5例が出生した。

No	感染症(PT)	出典	概要
451	梅毒	Public Health Agency of Canada/Infectious Diseases News Brief 2007年1月19日	中国は1960～1980年の20年間に梅毒を減少させることができたが、中国社会の本質的な変化により、性伝染病が再び流行している。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天性梅毒の発生率は、1991年は100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。
452	麻疹	asahi.com 2007年4月18日	東京都や埼玉県など関東地方でははしかが流行していることが、国立感染症研究所感染症情報センターがまとめた定点調査でわかった。例年より流行は早く、人の移動が活発になる連休に向けてさらに広がるのが予想されるとして、同センターは緊急情報を出して注意を呼びかけている。同センターによると、例年、はしかの発症は乳幼児に多いが、今年の流行は10代前半や大人に多いのが特徴という。
453	野兔病	<a href="http://www.abqtrib.com/news/2007/jun/20/university-new-mexicoexperts-warning-rashrodents/">http://www.abqtrib.com/news/2007/jun/20/university-new-mexicoexperts-warning-rashrodents/</a>	米国ニューメキシコ州において、ウサギを含むげっ歯類が急増したため、げっ歯類を宿主とする疫病の危険性が上昇している。野兔病の感染拡大がウサギの大量死に繋がっている。さらにSanta FeやBernalilloを含むいくつかの郡でウサギの死亡があり、7つの郡でイヌやネコにおいて野兔病の陽性反応が確認された。
454	野兔病	Star-Tribune 2006年10月31日	米国Wyoming周辺で野兔病のアウトブレイクが数件あり、州保健当局はハンターとリクリエーションに注意を喚起した。Wyomingでは今年2人が野兔病に感染した。1例はネコに手を噛まれた女性である。ネコは病気のウサギを噛んで感染したと思われる。
455	野兔病	Yahoo!ニュース 2008年3月4日、千葉県健康福祉部疾病対策課 感染症発生情報 平成20年3月4日	2008年1月30日、千葉県で74歳男性が野ウサギ食べようと調理したところ、2月7日頃から発熱した。2月29日に医療機関から野兔病の発症例として地元保健所に報告された。患者は既に回復している。また、野ウサギを提供した知人および患者家族の健康に異常はない。国立感染症研究所によると、野兔病は1994年までに1372例の患者が報告されていたが、その後減少し、1999年の千葉県での1例以降報告されていない。